

幼稚園部会活動紹介

関 由起子

はじめに

幼稚園部会は、48 園の全国国立大学附属幼稚園等（幼稚園 47 園、幼保連携型認定こども園 1 園）の園長並びに教員をもって組織している。本部会では、「会員相互の協力により、附属幼稚園の使命達成を図り、もってわが国の幼稚園教育の振興に寄与すること」を目的としているが、全園の協力体制のもとに実施している活動として、幼稚園教育研究集会の開催、リーフレットの作成・配布、文部科学省委託事業への協力がある。以下、それぞれの活動について紹介する。

幼稚園教育研究集会の開催

全国国立大学附属学校連盟（全附連）幼稚園部会の主催、教大協の後援という形で、「幼稚園教育研究集会」を年 1 回開催している。この研究集会の第 1 回は、昭和 29（1954）年度に大分を会場として開催し、令和 6（2024）年度に第 70 回を迎えている。全国を 6 つの地区（北海道・東北地区、関東甲地区、北信越・東海地区、近畿地区、中国・四国地区、九州地区）に分け、第 1 回以降、全国を輪番で開催地に行っている。令和 6 年度は新潟大会（北信越・東海地区担当）として、令和 7 年度は奈良大会（近畿地区担当）として開催予定である。これまで、幼児の夏休み期間に全国から教員が集まる会であったが、コロナ禍以降、オンラインでの開催となっている。

幼稚園部会の事務局会を中心に、研究集会の研究テーマを設定し、令和 5 年度から 7 年度の 3 年間は、「幼児期に『遊ぶ』を考える」をテーマとしている。令和 6 年度は 2 日間の日程で開き、4 つの分科会ではそれぞれ 2 つの園からの提案とそれを踏まえた協議を行っている。

リーフレット『国立大学附属幼稚園からの提案』の作成・配布

幼稚園部会として、地域の幼児教育に寄与することに関連して、平成 17（2005）年度より毎年、リーフレットを作成している。リーフレットは『国立大学附属幼稚園からの提案』として、各号に特集テーマを設けている。各号のテーマは、以下の通りである。

- 1 号：幼児教育と小学校教育をつなぐために 2 号：幼児教育を見つめるための評価
- 3 号：幼児の育ちの現状と課題 4 号：教育内容の改善－幼稚園教育要領の改訂を踏まえて－
- 5 号：協同して遊ぶことに関する指導の在り方 6 号：附属幼稚園における子育ての支援
- 7 号：附属幼稚園における健康な心と体を育てる“食育”の取組
- 8 号：言葉を豊かにはぐくむ経験や援助の在り方 9 号：自ら体を動かして遊ぶ経験や援助の在り方
- 10 号：多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める指導の在り方
- 11 号：遊びや生活を通して思考力を育む 12 号：保育内容の充実を図る園内研究のあり方
- 13 号：遊びの中での主体的・対話的で深い学び 14 号：遊びを支える教材の工夫・教材研究
- 15 号：遊びを充実させる環境構成の工夫 16 号・17 号：質の高い幼児期の教育
- 18 号・19 号：幼児期に「遊ぶ」を考える

令和 3（2021）年度の 16 号以降は、各園教員の働き方改革の観点も踏まえ、別途のテーマによる原稿作成ではなく、上述した「幼稚園教育研究集会」の提案内容を基に原稿作成する形に変更している。例年 10000 部程度を作成し、各園より地域の幼児教育施設等への配布を行っている。また、国立大学附属学校連盟ホーム

ページ内(<https://www.zenfuren.org/renmei/renmei-1791/>)にも掲載している。

文部科学省委託事業への協力

平成 21(2009)年度には、文部科学省の委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」として、「協同して遊ぶことに関する指導の在り方」の研究に幼稚園部会として取り組んだ。平成 26 年度以降は、毎年、文部科学省委託事業を行っている(平成 26 年度:幼児教育の改善・充実調査研究、27 年度:幼児教育の質の向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究、28 年度～:幼児期の教育内容等深化・充実調査研究、令和元年度～:幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究、令和 4 年度～:幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業、令和 6 年度:幼児期の学び強化事業)。文部科学省との委託契約は、1つの国立大学法人によるため、地区の輪番の中で担当大学・園を決定し、幼稚園部会としてその事業に協力する研究体制を採っている。これまでの委託事業は以下の通りである(括弧内は、委託契約をした大学名)。

平成 26 年度:多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める実践研究(千葉大学)

平成 27 年度:幼児期の非認知的な能力の発達をとらえる研究(お茶の水女子大学)

幼児の科学的思考を支える非認知的能力の発達の様相(鳴門教育大学)

平成 28 年度:幼児期に育みたい資質・能力を支える指導方法と評価に関する研究(神戸大学)

平成 29 年度:幼稚園における指導の評価の在り方に関する研究(鳥取大学)

平成 30 年度:「社会に開かれた教育課程」を編成するカリキュラム・マネジメントに関する研究(鹿児島大学)

令和元年度:幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る教育課程や指導方法の工夫の在り方についての研究(宮城教育大学)

令和 2 年度:幼児教育の独自性を踏まえた評価の具体的な在り方についての研究(東京学芸大学)

令和 3 年度:ICT 等を有効活用した幼児教育の質向上に資するための研究(三重大学)

令和 4 年度:幼児の遊びや生活を豊かにする ICT 活用に関する研究(京都教育大学)

令和 5 年度:幼児期の教育において育みたい資質・能力をとらえる研究(高知大学)

令和 6 年度:遊びにおける幼児の主体性と保育者の意図のバランスに関する研究(長崎大学)

これからの国立大学附属幼稚園として

令和 6 年の「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会」最終報告では、国立大学附属幼稚園の役割として、「幼児を取り巻く社会情勢の変化の中で教育課程に係る先進的な実践研究を行い、当該研究の成果を附属幼稚園はもとより、公立幼稚園等における実践を通じて他の幼児教育施設に展開するなど、広域のネットワークを形成しながら、地域の幼児教育を牽引する役割を果たしていくことが重要」と示されている。幼稚園部会として、これまで構築してきた 48 園の協力体制を継続しながら、今後も国立大学附属幼稚園として、幼児教育の質向上に向けて努めてまいりたい。

(令和 6 年度幼稚園部会代表・埼玉大学教育学部附属幼稚園長)